

詩篇 119 篇シリーズ Part 5

119:97 どんなにか私は、あなたのみおしえを愛していることでしょう。これが一日中、私の思いとなっています。**119:98** あなたの仰せは、私を私の敵よりも賢くします。それはとこしえに、私のものだからです。**119:99** 私は私のすべての師よりも悟りがあります。それはあなたのさとしが私の思いだからです。**119:100** 私は老人よりもわきまえがあります。それは、私があなたの戒めを守っているからです。**119:101** 私はあらゆる悪の道から私の足を引き止めました。あなたのことばを守るためです。**119:102** 私はあなたの定めから離れませんでした。それは、あなたが私を教えられたからです。**119:103** あなたのみことばは、私の上あごに、なんと甘いことでしょう。蜜よりも私の口に甘いのです。**119:104** 私には、あなたの戒めがあるので、わきまえがあります。それゆえ、私は偽りの道をことごとく憎みます。**119:105** あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。**119:106** 私は誓い、そして果たしてきました。あなたの義のさばきを守ることを。**119:107** 私はひどく悩んでいます。【主】よ。みことばのとおりに私を生かしてください。**119:108** どうか、私の口の進んでささげるささげ物を受け入れてください。【主】よ。あなたのさばきを私に教えてください。**119:109** 私は、いつもいのちがけでいなければなりません。しかし私は、あなたのみおしえを忘れません。**119:110** 悪者は私に対してわなを設けました。しかし私は、あなたの戒めから迷い出ませんでした。**119:111** 私は、あなたのさとしを永遠のゆずりとして受け継ぎました。これこそ、私の心の喜びです。**119:112** 私は、あなたのおきてを行うことに、心を傾けます。いつまでも、終わりまでも。**119:113** 私は二心の者どもを憎みます。しかし、あなたのみおしえを愛します。**119:114** あなたは私の隠れ場、私の盾。私は、あなたのみことばを待ち望みます。**119:115** 悪を行う者どもよ。私から離れて行け。私は、わが神の仰せを守る。**119:116** みことばのとおりに私をささえ、私を生かしてください。私の望みのことで私をはずかしめないようにしてください。**119:117** 私をささえてください。そうすれば私は救われ、いつもあなたのおきてに目を留めることができます。 **119:118** あなたは、あなたのおきてから迷い出る者をみな卑しめられます。彼らの欺きは、偽りごとだからです。**119:119** あなたは、地上のすべての悪者を金かすのように、取り除かれます。それゆえ私は、あなたのみおしえを愛します。**119:120** 私の肉は、あなたへの恐れで、震えています。私はあなたのみおしえを恐れています。

はじめに

OIC の皆さん、おはようございます。2 月は例年、日本で最も寒い月です。

私は、2 月の寒い日曜日の朝、生駒山で車の窓の氷を削り取っていたことを鮮明に覚えています。朝 8 時までに OCC の建物を解錠するために、7 時半に出発できるよう朝食前に車で出かけたものです。賛美チームが歌の練習ができるように、早めに到着するようにしていました。

セブンイレブンのホットコーヒーで目を覚まし、もう一度祈り、礼拝の準備をする時間がありました。ウェンディと私にとって、楽しい思い出です。

詩篇 119 篇 97-120 節の勉強を始める前に、この詩篇についていくつかのことを思い出しておくといでしょう。

詩篇 119 篇は聖書の中で最も長い詩篇で、神の御言葉がどのように私たちに聖なる者に成長させてくれるかが書かれています。

また、人生の困難な時に私たちに助けてくれる詩篇でもあります。

今、あなたが困難な時にあるとしたら、この詩篇はあなたの助けになることでしょう。

詩編 119 篇は 8 節で構成される各部に分かれています。

各部分がヘブル語のアルファベットの文字から始まっています。

私たちがヘブル語を読み、理解できれば、この詩篇は簡単に暗記できるでしょう。

それがこの詩篇がこのように構成されている目的の一つです。

神は私たちが聖句を暗記することを望んでおられます。

この詩篇の焦点は、私たちが神の御言葉を知り、感謝することにあります。

また、御言葉を日常生活に適用するのにも役立つようになっています。私達がしっかりと実行するならば、人生がより豊かで祝福されたものになるでしょう。

まず、今日学ぶ詩篇 119 篇の箇所を読んでみましょう。

1. **Mem(メム)**-ヘブル語アルファベットの 12 番目の文字。テーマ=単なる聖書の学びではない

現代では、聖書を学ぶための資料が多くあります。

インターネットから何千もの聖書注解書を見たり、聖書教師の教えを見つけたりできます。バイブルゲートウェイや他のアプリケーションを使って、英語訳では欽定訳からニューリビング訳まで様々な訳の聖書を活字ですべて読むことができます。

こういったものはそれ自体間違っていないかもしれませんが、聖書は他の本とは違うということを知ることが必要です。

私たちが聖書を学ぶことで益を得ようとするならば、この本の著者と親しい関係を築く必要があります。

神と聖書について学問的な知識を持っているだけでは十分ではありません。

その知識をどのように実践するかを知るべきです。

私たちと神との関係は、私たちの人生に対する神の御心との関係で決まります。

これは、御言葉である聖書と私達がどのように関わるかによって決まるのです。

私たち全員に必要なのは、神の御言葉に対する心の知識なのです。

神の御言葉に対する心の知識は、御言葉を通して神から直接教えられたときに生まれます。詩篇の著者は、神の御言葉から益を得るために、人生に必要な **3つの主要条件**をあげています。

神の言葉を愛し、思いを潜めるべし(97-100 節)

この節で著者は、個人的に神の御言葉に思いを潜めることによって、長老や教師よりも賢い者となったと述べています。

「思いを潜める」にあたる英語の”meditate(瞑想)”という言葉を見ると、私たちは仏教を思い浮かべがちです。英国でも盛んな仏教では瞑想が多く行われています。しかし、キリスト教の瞑想（思いを潜める）は別の種類のもので、キリスト教の瞑想は、聖書の一節を「集中して考える」ことで、その真理を自分の人生にどう生かすことができるかを見出すことなのです。

詩篇 1:1-3 「1:1 幸いなことよ。悪者のはかりごとによらず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかった、その人。1:2 まことに、その人は【主】のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ。1:3 その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。」

聖書に思いを潜めることには、祝福が約束されています。
聖書に思いを潜めることはイエス・キリストのようになるための鍵です。

ローマ 12:2 「12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何がよいことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」

私たちの心が神の御言葉によって変えられると、私たちの決断に影響を与え、私たちのライフスタイルがイエス・キリストのそれを反映するようになります。
聖書に思いを潜めることは、祈りが答えられることへ鍵です。

ヨハネ 15:7 「15:7 あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。」

聖書に思いを潜めることは、人生を成功させる鍵です。

ヨシュア 1:8 「1:8 この律法の本を、あなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさまなければならない。そのうちにしるされているすべてのことを守り行うためである。そうすれば、あなたのすることによって繁栄し、また栄えることができるからである。」

神の御言葉に従うべし(101-102 節)

神の御言葉に従わない限り、その恩恵にあずかることはありません。
聖書は、好きな食べ物を選び好むスーパーマーケットのようなものではありません。聖書が間違ったこととして教えていることがあれば、101 節にあるように私たちはその悪い道から離れるのです。
また聖書が正しいと教えていることなら、私たちはそれを避けず、従います。
あるクリスチャン作家はこう言っています「従順は霊的知識の器官である」
つまり、神の言葉に従うと、神についての知識と神の御言葉に対する洞察が深まるのです。

神の御言葉を楽しむべし(103-104 節)

詩篇の著者が当時味わうことのできた最も甘いものは、はちみつでした。

ですから、彼は神の御言葉を読む楽しみをはちみつの味にたとえています。
もしイエスを自分自身の救い主として知り、愛しているなら、神の御言葉ははちみつのように甘いのです。

しかし、もしあなたが熱心なクリスチャンではなく、イエスと一緒に歩いていないなら、御言葉をあまりおいしいとは感じないでしょう。
良い夫婦関係、あるいは親しい友人関係においては、その人と一緒に過ごす時間はいつも楽しいものです。

それは、神の御言葉、聖書に関しても同じことです。
あなたは創造主と親しい関係にあるのですから、神と過ごす時間を楽しむべきです。この関係は、創造主である神にとって大きな代償を伴うものでした。
神は、私たちが神との正しい関係に立たせるために、御子イエスに私たちの罪の罰を受けさせてくださったのです。
ですから、神との正しい関係にあるとき、神の御言葉をより一層楽しむことができるのです。

2. Nun(ヌン) – テーマ : 忠実であると決意する (105-112 節)

「『信頼性』は最大の能力だといえる」と言った人がいます。

このことは特にクリスチャン生活に当てはまります。

クリスチャンは皆、神が御言葉にまことであること、そして神の子どもたちに対する個々の約束に忠実であることを望んでいます。

ですから、神がご自分の子どもたちに忠実であることを期待するのは、決して間違ったことではありません。

忠実であることは、私たちの信仰の証です。

しかし、信仰は、神の御言葉を聞き、受け取ることから始まります。

(ローマ 10:17、テサロニケ第二 2:13)

この部分で著者は、信仰者の生活における忠実さの領域についていくつか述べています。

忠実な足 (105 節)

この節では、聖書に基づく 2 つのイメージが組み合わされています。

人生は「道」のようなものです。(詩篇 119:32、35、101、128、詩篇 16:11)。

神の御言葉は、私たちが正しい道をたどるのを助ける「光」のようなものです。

(詩編 119:130、詩編 18:28、詩編 19:8、詩編 36:9、詩編 43:3)

この詩篇が書かれた旧約聖書の時代には、電気はもちろん、電池式の懐中電灯などありませんでした。

油の入った土の器があり、その油からの光で目の前の道だけを一步ずつ照らしていたのです。

私のようにヘッドトーチ (アメリカではフラッシュライト) を持っていれば、よくわかるでしょう。私は、夜に自宅近くの田舎道を歩くときにそれを使っていますが、前方 2 メートルくらいしか見えません。

私たちが神の御言葉に従うとき、それと少し似ています。私たちは一歩ずつしか進めませんし、前にあることしか見えず、経路の全体が見えているわけではありません。神とともに、御言葉を通して従順な一歩を踏み出し、それが次の一歩につながっていくのです。

最終的には目的地に到着します。それは、私たちが忠実に少しずつ従順な道を歩んできたからです。

神の御言葉への従順は、私たちに光の中を歩ませ続けます。(ヨハネ第一 1:5-10)
聖書は、私たちが暗い世界に住んでおり、神の御言葉の入口だけが私たちに光を与えてくれると教えています。

(ヨハネ 1:5, 3:19, 8:12, 12:46, コロサイ 1:13, ペテロ第一 2:9)

忠実な言葉(106-108 節)

この部分で著者は、神との約束を繰り返しています。彼はまた、神が自分の人生を回復し、御言葉を尊重してくれることを期待しています。

神と約束をするということは、とても大きなことであり、私たちはそれを守ろうとしない限り、約束をしてはいけません。

これは、神との約束でも、友達との約束でも同じです。

もちろん私たちは、神との誓いや約束を果たすことができるように、聖霊に頼らなければなりません。

マタイ 5:33-37 「5:33 さらにまた、昔の人々に、『偽りの誓いを立ててはならない。あなたの誓ったことを主に果たせ』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。5:34 しかし、わたしはあなたがたに言います。決して誓ってはいけません。すなわち、天をさして誓ってはいけません。そこは神の御座だからです。5:35 地をさして誓ってもいけません。そこは神の足台だからです。エルサレムをさして誓ってもいけません。そこは偉大な王の都だからです。5:36 あなたの頭をさして誓ってもいけません。あなたは、一本の髪の毛すら、白くも黒くもできないからです。5:37 だから、あなたがたは、『はい』は『はい』、『いいえ』は『いいえ』とだけ言いなさい。それ以上のことは悪いことです。」

(その他参照聖句: 民数記 30: 2, 申命記 23:21, 伝道者の書 5: 1-7)

実例:アリスティア牧師著の本「Personal Testimony of Faith Stories 信仰物語～わたしの証～(仮題)」33-34 ページ 4 章より

「支払うことのできない負債を抱えて

私達は自分で返すことのできない罪の負い目を神に負っていると聖書は教えます。いくら良い行いや慈善活動を行ったとしても、それが私達の罪を消すことは決してありません。イエス・キリストだけがそれを支払うことができ、イエスの十字架上の死で私達の負い目が完全に帳消しにされたのです。

この話をしなくてもよかったなら...と思いますが、これは、普通のクリスチャン生活とは神とその目的に完全に明け渡すことであると私が理解し始めていた時でした。

放蕩息子（私）は神の元に戻りました。良い仕事も得て、会社の車も与えられ、家も購入し、長男も生まれました。でもまだ何か欠けていたのです。神が私のために何か用意されていると感じていましたが、それをまだ見つけてはいませんでした。

度重なる誤った選択により、私は事業で、支払うことのできない負債を負ってしまいました。裁判官が今後の行く末について決断を下すことになり、私は裁判に出席しました。犯罪ではありませんでしたし、その負債はもう一人の人との間の問題でした。私は、会社の車の座席でひざまずき、神に助けを叫び求めたことを覚えています。このようなことを招いた誤った決断を悔い改め、もしもこの負債をどうにか帳消しにしてくださるのであれば、神の私に対する御心が何であれ、私の人生を完全に神に明け渡します、と神に約束しました。

私達は皆、裁判所で席に付き、裁判官は弁護士の報告を待っていました。弁護士が到着すると、彼は「この案件に関する公式な書類がすべて、忽然と姿を消しました」と言ったのです！書類はすべて鍵のかかる場所に入れてあったのにすべてなくなってしまったのでした。裁判官は、「この案件を報告するために書類を再作成する時間を 24 時間与えます。それができなければマッケンナ氏の負債は無効ということになります」と言いました。その額が大きかったため、私はその書類はきっと発見されて、最終的に私がどうにか支払う方法を見つけ出さなければならぬと思っていました。けれどもその書類は見つかることなく、裁判官は負債を無効とし、私は神様の素晴らしい助けに心から感謝しました。私はその奇跡にふさわしくありませんでしたが、私の人生における神の恵みに全面的に気づくことになったのです。」

これはほんの個人の証ですが、もしも私が自分の約束を守らなかったなら、危険な立場にあったことでしょう。神に助けを求めて、約束をするのは良いかもしれませんが、それを忠実に守らなければなりません。

ある聖書の注解者は「神への賛美を歌うときこそが言葉の最高の使い道だ」と言っています。

私たちは神様が私たちの賛美を受け入れてくださることを望んでいますね。ですから、私たちは確かに神に対して聖句から歌わなくてはなりません。

良い賛美は聖書に基づいていなければなりませんし、聖書の言葉をそのまま歌にすることもできます。

108 節で著者は、神が賛美を受け入れてくださるよう期待しています。

詩篇はまさに神の歌集です。私たちがその「歌集」から歌うとき、神様はそれを喜んでくださいます。

忠実な記憶(109-110 節)

旧約時代の信徒は、現在のような聖書を持っていませんでした。

いつでも好きな時に聖書を参照できるわけではなかったのです。

旧約聖書は、大きな巻物に書かれて、祭司のもとに置かれていました。そのため、人々は神の言葉が公に読まれるのを注意深く聞かなければなりませんでした。

聞いたことを覚えなければいけませんでした。

現代では、ポケット聖書があったり、携帯電話やタブレットに聖書を入れたりして、とても恵まれています。

しかし、聖書を読まない限りは、覚えることもないのです。

聖霊の働きの一つは、私たちが必要とするときに、神のことばを思い起こさせることです。(ヨハネ 14:25-26、16:12-15)。

しかし、私たちは一度も学んだり聞いたりしたことのないことを思い出すことはできません。

この箇所では著者は、自分がリスクを負っていると言っています。イエスに従う時に私達も同じです。しかし、それは神の栄光のために取るに足るリスクなのです。

忠実な心(111-112 節)

この部分の最後の 2 節で、著者は神の御言葉を心の喜びと呼んでいます。英語の NLT 訳では、神の御言葉は彼の宝であり、心の喜びであると書かれています。

著者が神の御言葉を喜んでしたのは、宝物を見つけるために神の御言葉の中に深く入りこんだからです。

神の言葉を表面的に読むのも良いですが、神の言葉を深く掘り下げてこそ、宝を見つけることができるのです。

掘り下げるには熱心に勉強することが必要で、良い資料があればそれも役立ちます。私がまだ 6 歳のとき、両親に連れられて南アフリカのヨハネスブルグで開催されたランド・イースター・ショーに行きました。農芸展覧会のことは何も覚えていませんが、金山に連れて行かれたことは覚えています。

精製された金の延べ棒を触って持ち上げられなかったことを除けば、私の体験した最大のことは、金を見つけるためには地下深くまで行かなければならないことを理解したことです。

エレベーターでかなり下まで降りて、金を掘っている場所の近くを見学しました。ですから、もし私たちが神の御言葉から金を採掘したいのなら、深く掘り下げて聖書を研究する覚悟が必要です。この勉強は、頭のお勉強ではなく、従順と従順から来る喜びのために心を広げるべく行うべきなのです。

いよいよ今日の最後の部分です。

3. Samekh(サメフ) 敵に対処する(113-120 節)

もしクリスチャン生活が、神の言葉に思いを潜め、神を愛するだけであれば、私たちの生活はきっと楽でしょう。

しかし、真のクリスチャンには大きな敵が存在し、その敵は彼に協力する多くの小さな敵を通して活動します。

その敵はサタンと呼ばれ、この世で自分の活動を促進するために多くの人を利用します。

使徒言行録 14 章 22 節は、「私たちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なければならぬ」と教えています。

もし、私たちの世界で敵がやっていることだけに目を向けていたら、私たちは落胆し、あきらめたくなるでしょう。

民数記 13 章 27-33 節には、神がイスラエルの民に与えると約束された土地を調べるために、カナンに密航した 12 人の斥候たちの話が書かれています。10 人の斥候たちは敵ばかりを、そして自分の能力ばかりを見ていました。彼らは落胆し、その土地に入ることを望みませんでした。しかし、ヨシュアとカレブは偉大な神とその力と約束に目を向け、神が彼らを用いてその地を征服してくださると信じました。結局、約束の地に入ったのは、ヨシュアとカレブだけでした。当時、戦っていた他のすべての人々は、40 年以上にわたって荒野で死んでいったのです。この詩篇の中で著者は、私たちが勇気を持って神の助けに確信を持って敵と立ち向かうために役立つ 4 つの保証を与えています。

神はご自分の民を守られる(113-115 節)

著者は 113 節で「二心の者どもを憎む」と言っています。この人たちは、神に対して完全にささげきれていない人たちでした。現代では、私たちは彼らのことを中途半端な心の持ち主と呼べるでしょうか。ヤコブ 1 章 8 節では、二心のある人はその歩む道のすべてに安定を欠いた人だと述べています。著者は、神が自分の隠れ場所であり、盾であると述べています。

エペソ 6:16 「6:16 これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。」

私たちが敵から守ってくれるのは、神と神の御言葉に対する信仰です。詩篇を読むと、主が私たちを守ってくださるのは、私たちが敵に立ち向かい、日々の戦いを戦えるように備えるためであることがよくわかります。

詩篇 3:3 「しかし、【主】よ。あなたは私の回りを囲む盾、私の栄光、そして私のかしらを高く上げてくださる方です。」

(同じ真理が含まれるその他参照聖句: 詩篇 27: 5, 28: 7, 31:20, 32:7, 33:20, 46: 1-2, 61: 4, 84:11, 91:11)

神にあってのみ、私たちは日々の戦いに立ち向かうために必要な守りと助けを見出すことができます。

神は従順な者を支えられる (116-117 節)

ヘブル語で「支える」と訳されるこの言葉は「維持する」という意味もあります。この二つの言葉は、私たちが神に支えてもらうべく寄りかかれば、神は私たちを助け、新たにしてくださるという意味です。私たちがあきらめそうになるとき、神は素晴らしい方法で私たちを助けてくださいます。神は私たちの愛すべき天の父なのです。

神は悪しき者を退けられる(118-119 節)

この聖句を英語の NLT 訳で読んでみましょう。

「119:118 あなたは、あなたのおきてから迷い出る者をみな卑しめられます。彼らの欺きは、偽りごとだからです。119:119 あなたは、地上のすべての悪者を金かすのように、取り除かれます。それゆえ私は、あなたのさとしを愛します。」

現代では、世界のどこでも、道徳的行動に関して面と向かって臨むことが好まれません。西洋のいわゆる「キリスト教国」と呼ばれる多くの国々でも、罪を憎み、罪を罰しなければならないという聖い創造主なる神の概念を公的な場で語られることは許されていません。

人々は自分の行動に何の懸念も持たずに生活したいのです。今日では LGBT 運動が非常に強力で、あらゆる面で神についての真理を沈黙させ、敵であるサタンの嘘を助長しています。真実と嘘の間の葛藤です。

神の真実は最終的に勝利しますが、神を拒否するすべての人々を神は裁きます。神はその裁きにおいて、イエスを救い主として信仰するすべての人々を神の子として聖められます。しかし、神は地上の悪い者たちをごみのごとくすくい取られるのです。悪い者の考えや計画は、嘘に基づいています。詩篇の作者は、彼らは自分自身を欺いているに過ぎないと言っています。もし真理を知っており、今イエスに従っているなら、あなたはとても恵まれているのです。

v. 120 神だけが恐れられるべきお方

詩篇の作者は、神に対する健全な恐れをもって締めくくっています。神への恐れとは、私たちが個々に持つ恐れをすべて征服する恐れです。

詩篇 118:6 「【主】は私の味方。私は恐れない。人は、私に何ができよう。」

神は神を恐れる者を尊ばれます(詩篇 15:4)

私たちが神に従順に生き、神と御言葉への信仰を示し、神の力、聖さ、威厳を尊重するとき、私たちは神の守りを保証されるのです。私たちがこれから神の言葉の教えを実践することができるように、神が助けてくださいますように。

アーメン